

今別・外ヶ浜地域交通検討会議規約 (仮称)

(名称及び目的)

第1条 本会議は、今別・外ヶ浜地域交通検討会議（以下「交通検討会議」という。）と称し、今別町・外ヶ浜町における持続可能な地域交通の維持・構築について検討することを目的とする。

(協議事項)

第2条 交通検討会議は、次の各号に掲げる事項について協議・調整する。

- (1) JR津軽線（蟹田駅以北）の復旧、利用促進、今後のあり方に関する事
- (2) 今別町・外ヶ浜町の地域交通の確保に関する事
- (3) 今別町・外ヶ浜町の地域課題への対応に関する事
- (4) 関係機関相互の調整に関する事
- (5) その他、交通検討会議の目的を達成するために必要な事

(構成)

第3条 交通検討会議は、別記に掲げる者（以下「会員」という。）をもって構成する。

2 交通検討会議は、前項の会員以外の者又は団体に、オブザーバーとして参画を求めることができる。

(会長)

第4条 会長は、東日本旅客鉄道（株）盛岡支社地域連携推進室長とする。

- 2 会長は、交通検討会議の会務を総理する。
- 3 会長に事故のあるときは、会長があらかじめ指名する会員がその職務を代理する。

(会議)

第5条 交通検討会議の会議は会長が招集し、会長が会員の所属する組織の中から指名した者により会議を進行する。

- 2 会員が会議に出席できないときは、会員の所属する組織の中から代理者を出席させることができる。
- 3 交通検討会議は、必要に応じて関係者を出席させることができる。
- 4 交通検討会議は、必要があると認めるときは、会員及びオブザーバー以外の者に対して、資料を提出させ、又は会議への出席を求め、意見を聞くことができる。
- 5 会議の議決方法は、会員による全会一致を原則とするが、成立しない場合は多数決とする。

2023年3月22日 衆議院国土交通委員会 日本共産党 高橋千鶴子 提出資料

出典：今別・外ヶ浜地域交通検討会議 提出資料

(事務局)

第6条 交通検討会議の事務局は、東日本旅客鉄道株式会社盛岡支社企画室に置く。

(雑則)

第7条 この規約に定めるもののほか、交通検討会議の運営に関して必要な事項は、会長が別に定める。

附 則

この規約は、令和5年1月18日から施行する。

別記（第3条関係）

団体名	職名
今別町	総務企画課長
外ヶ浜町	総務課長
青森県	交通政策課長
東日本旅客鉄道（株）盛岡支社	地域連携推進室長

(オブザーバー)

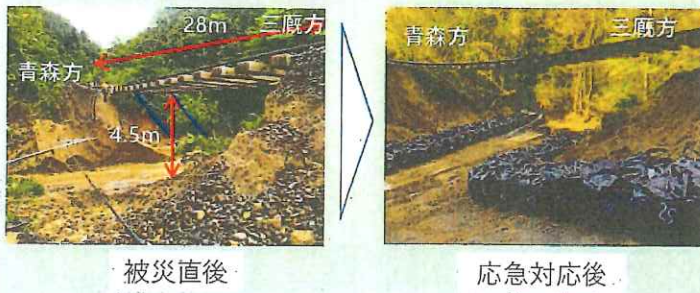
団体名	職名
東北運輸局	鉄道部計画課長

津軽線の被災状況と復旧に必要な工期・費用

- 2022年8月大雨による被害は大平駅～津軽二股間に集中。
- 特に被害が大きいのは「枝沢橋りょう」と「第一今別川橋りょう」の2箇所。



① 枝沢橋りょう 盛土流出



② 第一今別川橋りょう 盛土流出



- 工事に着手可能となるのは雪融け後であり、**少なくとも着手後4カ月程度の工期が必要**
- 復旧にかかる費用は**少なくとも6億円※程度**

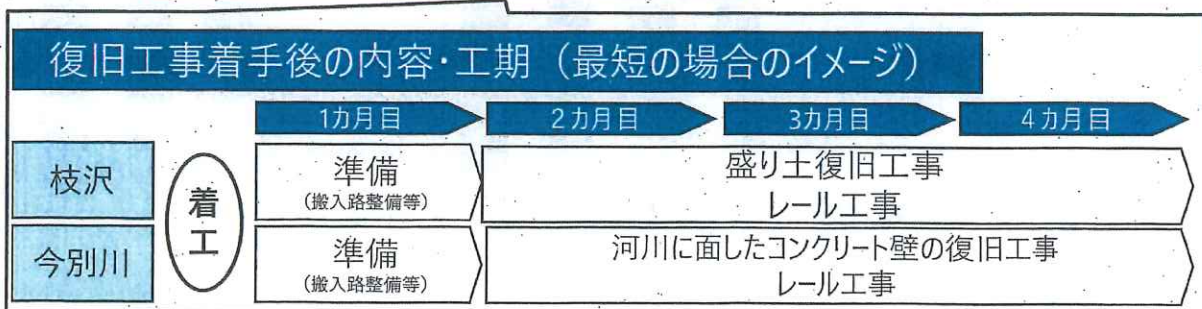
※ 既に施工した工事費用を含む。

復旧費用6億円の内訳

復旧費用6億円のうち、応急対応費が約2億円、盛り土やレールの復旧費が約4億円以上

復旧にかかる工期と費用について

- 復旧工事は早くても雪解け後の着手となり、工事に要する期間は**少なくとも着工から4カ月程度**かかる見込み。



- 復旧費用は**少なくとも6億円程度**かかる見込み。

復旧費用内訳

- 被災箇所の応急対応費用 ... 約2億円 (既に実施済)
- 盛り土やレールの復旧費用 ... 約4億円以上

今別・外ヶ浜地域の公共交通の現状

主に今別・外ヶ浜地域内の移動を担う「今別町巡回バス」・「外ヶ浜町営バス」、
主に今別・外ヶ浜地域外との移動を担う「JR北海道新幹線」・「むつ湾フェリー」、
双方を担う「JR津軽線」・「愛乗タクシー」・「タクシー」が存在

今別・外ヶ浜地域の公共交通網（2022年8月の豪雨災害前。実証運行の「わんタク」、「つがるん」は除く）



※ 地域内の移動：今別・外ヶ浜地域内の移動
地域外との移動：今別・外ヶ浜地域外との相互移動

表示	名称	主な役割*	運行主体
	今別町巡回バス	地域内の移動	今別町
	外ヶ浜町営バス	地域内の移動	外ヶ浜町
	JR北海道新幹線	地域外との移動	JR北海道
	むつ湾フェリー	地域外との移動	むつ湾フェリー
	JR津軽線	地域内の移動/ 地域外との移動	JR東日本
	愛乗タクシー (予約型乗合タクシー)	地域内の移動/ 地域外との移動	奥津軽いまべつ駅 二次交通対策協議会
無表示	タクシー	地域内の移動/ 地域外との移動	蟹田交通、 奥津軽観光

◆ JR津軽線の主要駅（各地区の代表駅）

● その他の主要な交通拠点（バスの発着地点等）

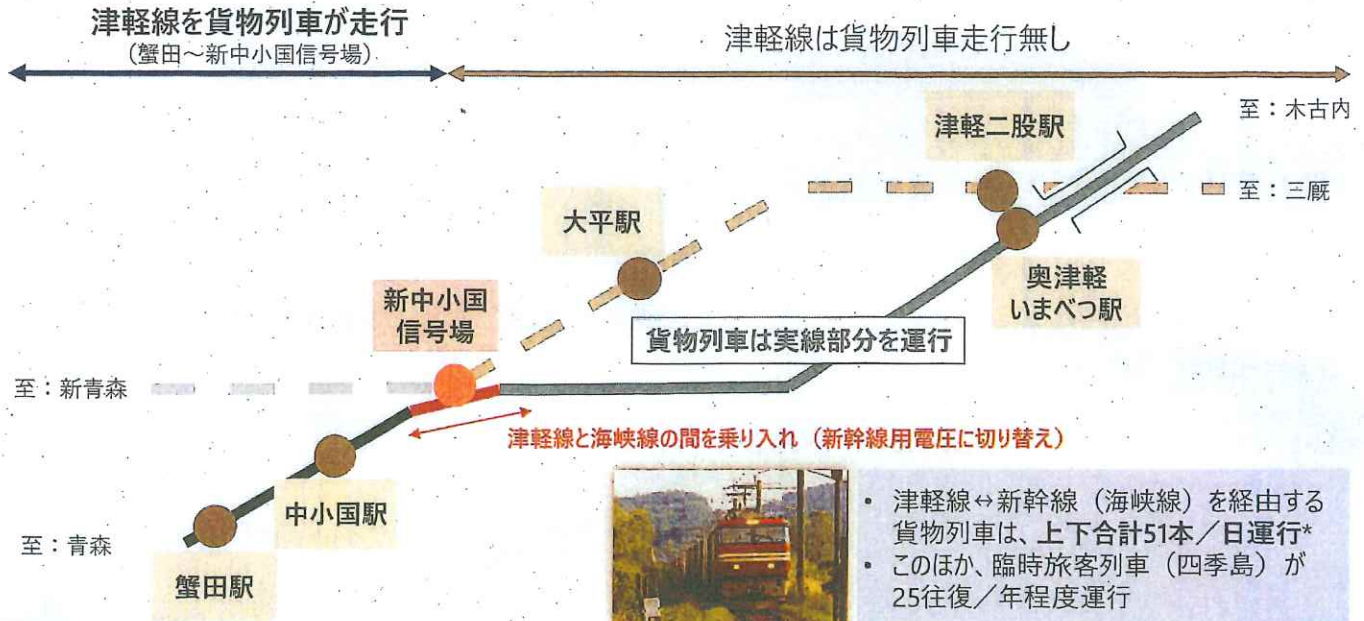
注）短距離運行の一部バス路線については、縮尺の都合で記載を省略している
出所）JR東日本盛岡支社提供資料を基に加筆し作成（地図出所：Google ©2023）

貨物鉄道への影響、新幹線二次交通の充実 | 貨物鉄道への影響

JR津軽線の青森駅～新中小国信号場間は、本州と北海道を結ぶ貨物列車の運行ルートとして使用されているが、当該区間の線路等設備については現状維持を前提とする

貨物列車の運行ルート（イメージ）

- 津軽線
- — 北海道新幹線（貨物路線としては「海峡線」）



- 津軽線⇄新幹線（海峡線）を経由する貨物列車は、上下合計51本/日運行*
- このほか、臨時旅客列車（四季島）が25往復/年程度運行

*2020年時点。臨時列車を含む
出所）国土交通省鉄道局「青函共用走行に関するこれまでの検討及び論点について」およびJR東日本盛岡支社データより作成